

令和5年7月
江差町教育委員会
学校教育課

『コロナ禍を越えて』

『北海道に梅雨はない』と言われてきましたが、江差を含めた道南に梅雨があると感じている人は多いかと思います。初夏を過ぎ、やっと爽やかな日差しに夏を実感できるようになってきました。近年、北海道でもエアコンの設置率が高くなっていますが、猛暑の夏とはならないでほしいものです。

全道的に熊の報道がされています。札幌や他の市町村のことと思っていた熊出没が町内で起こり、身近な出来事となってしまいました。

30年以上前になりますが、友人と二人で山女釣りに出かけました。釣りながら川を上るときはあっという間ですが、川を出て林道を下る時に急に熊の影が頭に浮かびあがります。長く感じる車までの時間「熊と出会ったら決して走って逃げ出さず、目線をそらさずに少しずつ後退りして熊が去るのを待つ。」と、歩きながら二人で対策を確認しました。しかし、ポケットに入っていた笛を見つけた友人が『なんだか怖くなって・・・』と、ピーッと吹いた瞬間、私は走り出していました。吹いた友人も走り出した私にびっくりして走り出しました。『いざとなったら思っていた通りの行動はできない』と思い知りながら車に辿り着きました。

営林署に勤務していた義父が「音で存在を示せば人間を察知して避けていくから熊は怖くない」と話していましたが、最近の熊は人に近づいてきているようにも思えます。山林に入った時のごみの始末はもちろん、山裾と距離が近ければ、家庭のゴミ処理にも気を使わなければならない状況です。子どもたちはもちろん全市民の安全確保のため、心構えの確認と、危険な状況に至らないための予防対策が必要です。

5～6月、町内各小中学校で運動会・体育祭が行われました。マスクを外した児童生徒の顔も見られ、コロナ禍以前の姿が戻ってきました。児童席から大きく響く声援、数年振りに目にする躍動の光景に思わず涙腺が緩みました。過去を振り返ると、運動会は地域ぐるみで楽しむお祭りでもありました。一斗缶を叩きながら子供とともに走り出す観客の姿は、会場に明るい笑いを振りまきました。焼き肉をしている保護者席から「先生もこっちさ来て一杯やれ～！」と声がかかったこともありました。ほろ酔いのふらつく足元で競技参加しようと出てくる方に困らされ、心配しながら動きを見守った記憶もあります。コンプライアンスが意識され、モラルや社会規範が問われる今では考えられないような出来事でしたが、間違いなく運動会は地域のお祭りであったのだと思います。時代に合わない面は、改善するとし、大切に部分は大事に残したいものです。

6月4日、運動公園で『檜山管内中学生春季サッカー大会』が行われました。競技会場には、応援の保護者の姿がありました。観客の入場が制限されていた時は、選手たちの放つ躍

動的なエネルギーが誰の目にも心にも届くことなく放出されているようで、寂しい思いを感じていました。一生懸命のプレーへの声援が、選手の更なる頑張りへの力になる。競技会場を包む一体感が戻ってきたことに嬉しさを覚えました。控えられていた試合前後のセシモニーも復活していました。相手があってこそできるスポーツですから、審判に敬意を示し、お互いに健闘を期して挨拶し、終了後には称えあって握手をする。そんなあたり前だった光景が戻ってきたことにも感動させられました。

7月4・5日には檜山中体連球技大会が行われ、運動公園の『うみ街信金ボールパーク』では、野球大会が開催されました（その他の競技の会場は、バレーボール：上ノ国町スポーツセンター、バスケットボール：乙部町民体育館、卓球：厚沢部町総合体育館、サッカー：北檜山中学校グラウンド、でした）。中学生たちの溢れるエネルギーと直向きさ、観客席から響く声援で各会場に感動が生まれたことと思います。全道大会を目指した町内生徒の健闘を称え、全道に駒を進めた選手たちの今後の活躍を祈念します。

6月13日に行われた『少年の主張江差町大会』は4年振りに制限なく観客を入れての開催となりました。シニアカレッジ江差学園の皆様には審査の上『シニアカレッジ賞』を選出いただきました。聴衆の皆様には伝わるような文章を考え、発表することは大変な労力を要する作業ですが、今年度は出場者が1名増え、昨年いなかった男子も2名参加がありました。出場した6名が『恰好良い先輩』の姿として両校に引き継がれ、来年は更に多くの生徒に出場してもらいたいものです。

コロナ禍前の状況が少しずつ戻ってきた嬉しさの中、第9波に関わる報道もされています。活動できる状況を楽しみながらも、消毒等予防対策は継続しなければなりません。

これまで、横断歩道を渡り終えた児童生徒が振り返り礼をする姿を何度かお知らせしましたが、最近横断歩道で止まる車が増えてきたように思います。私自身も横断歩道を渡ろうとしている歩行者の有無を注意して見るようになりました。先日は、横断歩道を渡り終えた大人も振り返り、運転者に礼をする姿を見ました。もしかすると、子どもたちの行動が生み出している現象かもしれません。『地域全体で子どもを育てる江差町でありたい。』と思いますが、子どもたちに育てられるという面もあるのかもしれません。良い『相乗効果』になればと思います。